

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-373015

(43) 公開日 平成4年(1992)12月25日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	片内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 3/14	3 1 0 B	8725-5B		
15/62	3 2 0 A	8125-5L		

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平3-150732

(22) 出願日 平成3年(1991)6月24日

(71) 出願人 000004237

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号

(72) 発明者 加藤 雅典

東京都港区芝五丁目7番1号日本電気株式会社内

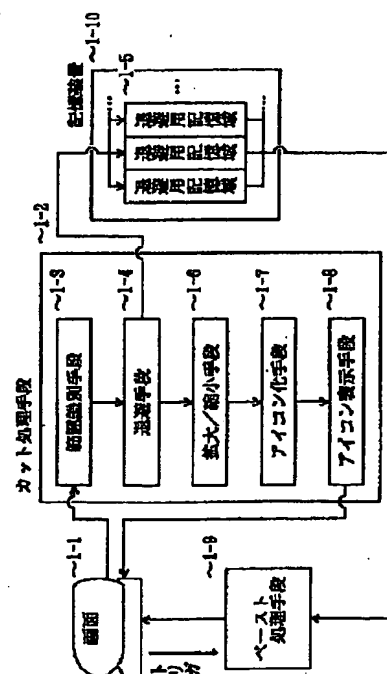
(74) 代理人 弁理士 内原 晋

(54) 【発明の名称】 カットアンドペースト処理方式

(57) 【要約】

【目的】 ペースト処理、カット処理の操作性を改善する。

【構成】 範囲識別手段1-3は画面1-1上で指定された矩形領域の位置と大きさを認識する。退避手段1-4は認識された矩形領域内のデータを予め具備された複数の退避用記憶域1-5の1つに退避する。拡大/縮小手段1-6は矩形領域内のデータを予め用意されたアイコン表示域の大きさに拡大又は縮小する。アイコン化手段1-7はこの拡大/縮小手段により拡大又は縮小されたデータをアイコン化する。アイコン表示手段1-8はアイコン化されたデータを画面上の特定領域に表示する。ペースト処理手段1-9は指定された退避用記憶域1-5のデータを画面1-1上の指定された位置に指定された大きさでペーストする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ビットマップディスプレイを用いたマンマシンインタフェースを有する対話型システムにおけるカットアンドペースト処理方式において、画面上で指定された矩形領域の位置と大きさを認識する範囲識別手段と、前記認識された矩形領域内のデータを予め具備された複数の退避用記憶域の1つに退避する退避手段と、前記矩形領域内のデータを予め用意されたアイコン表示域の大きさに拡大又は縮小する拡大／縮小手段と、前記拡大／縮小手段により拡大又は縮小された前記データをアイコン化するアイコン化手段と、前記アイコン化されたデータを前記画面上の特定領域に表示するアイコン表示手段と、指定された前記退避用記憶域のデータを前記画面上の指定された位置に指定された大きさでペーストするペースト処理手段とを備えたことを特徴とするカットアンドペースト処理方式。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、ビットマップディスプレイを用いたマンマシンインタフェースを持つ対話型システムにおけるカットアンドペースト処理方式に関する。

【0002】

【従来の技術】 従来、この種のカットアンドペースト処理方式は、カットすべき矩形領域の位置と大きさを認識する範囲識別手段と、指定された矩形領域内のデータを一時的に退避用記憶域に退避するための退避手段のみからなるカット処理手段を有し、利用者がカットした内容を記憶しておき、その内容に基づいてペースト処理を指示した時に、退避用記憶域から指定場所へ拡大あるいは縮小処理を行った結果をペーストする処理方式となっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 上述した従来のカットアンドペースト処理方式は、カットされた矩形領域の内容を一時的な退避域へ退避しているのみなので、利用者がペースト処理時にカット内容を記憶しているか、あるいはカット処理とペースト処理を連続して行う必要がある。また、カットされた矩形領域を退避するための領域も一つしかなく、直前に退避したものを利用する場合を除いては、毎回カット処理とペースト処理を行う必要がある。さらにカット内容を確認するためには、一旦ペースト処理を行わなければならないという欠点がある。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、ビットマップディスプレイを用いたマンマシンインタフェースを有する対話型システムにおけるカットアンドペースト処理方式において、画面上で指定された矩形領域の位置と大きさを認識する範囲識別手段と、前記認識された矩形領域内のデータを予め具備された複数の退避用記憶域

の1つに退避する退避手段と、前記矩形領域内のデータを予め用意されたアイコン表示域の大きさに拡大又は縮小する拡大／縮小手段と、前記拡大／縮小手段により拡大又は縮小された前記データをアイコン化するアイコン化手段と、前記アイコン化されたデータを前記画面上の特定領域に表示するアイコン表示手段と、指定された前記退避用記憶域のデータを前記画面上の指定された位置に指定された大きさでペーストするペースト処理手段とを備えたことを特徴とする。

10 【0005】

【実施例】 次に、本発明について図面を参照して説明する。図1は本発明の一実施例を示す構成図である。図2は本発明の一使用例を示す説明図である。図1は、イメージやテキストの編集処理（例えば、ワードプロセッサなど）を行う画面1-1上で、利用者により指定された任意の矩形領域を異なる位置に移動や複写を実施する場合、指定された矩形領域をカットするカット処理手段1-2の一連の処理を示している。

【0006】 まず、範囲識別手段1-3が、指定された矩形領域の位置と大きさを認識し、その内容を一旦記憶装置1-10内の退避用記憶域1-5のうちの一つへ退避手段1-4を介して退避を行う。この退避域を選択するための制御方式には、例えばFIFO方式がある。この退避内容を常に画面上で認識できるようにアイコン化して表示するために、指定された矩形領域がアイコンの大きさより大きい場合は縮小、小さいときは拡大する処理を行う拡大／縮小手段1-6があり、この拡大／縮小された結果を画面上に一種のマークとして表示するために、アイコン化手段1-7が、アイコン表示データを作成しアイコン表示手段1-8を介して画面上の特定領域にアイコンを表示する。この後、利用者により、カットした内容を複写や移動するための貼り付け指示であるペースト処理が、表示されているアイコンを利用して指定されると、ペースト位置と大きさを認識してペースト処理手段1-9は、アイコンに対応する退避領域から退避データを画面上に、拡大を伴うペースト処理であれば拡大処理を、縮小を伴う処理であれば縮小処理を行って表示する。

【0007】 図2は簡単な一使用例、すなわち画面の遷移を示したもので、カット処理指示画面2-1は任意の領域にカット指示をしていることを示しており、指示された領域がカット領域2-4である。この結果、アイコン表示画面2-2において、カットされた領域のデータが退避用記憶域2-6のうちの一つに退避されると同時に、拡大あるいは縮小されたデータがアイコン化されてアイコン表示域2-5に表示される。その後、利用者によりアイコンを利用してペースト処理が指示されるとアイコンに対応した退避用記憶域から指定された場所に指定された大きさで退避内容がペーストされ、ペースト処理実施画面2-3に示すようになる。この時、アイコン

表示域2-7及び退避用記憶域2-8の内容は変わらない。

【0008】

【発明の効果】以上説明したように、本発明はビットマップディスプレイを用いたマンマシンインタフェースを持つ対話型システムにおけるカットアンドペースト処理方式において、複写や移動処理に伴うカット処理時にカット内容を複数個退避できるようにしたとともに、アイコン化して画面上の特定領域に表示しておくようにしたことにより、カット内容を利用者が記憶しておいたり、ペースト処理をカット処理に連続して行わなければならないという利用上の不備をなくすとともに、カット内容を画面上で常に確認できるという効果がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す構成図である。

【図2】本実施例における動作説明図である。

【符号の説明】

1-1 画面

1-2 カット処理手段

1-3 範囲識別手段

1-4 退避手段

1-5 退避用記憶域

1-6 拡大/縮小手段

1-7 アイコン化手段

1-8 アイコン表示手段

1-9 ペースト処理手段

1-10 記憶装置

2-1 カット処理指示画面

2-2 アイコン表示画面

2-3 ペースト処理実施画面

2-4 カット領域

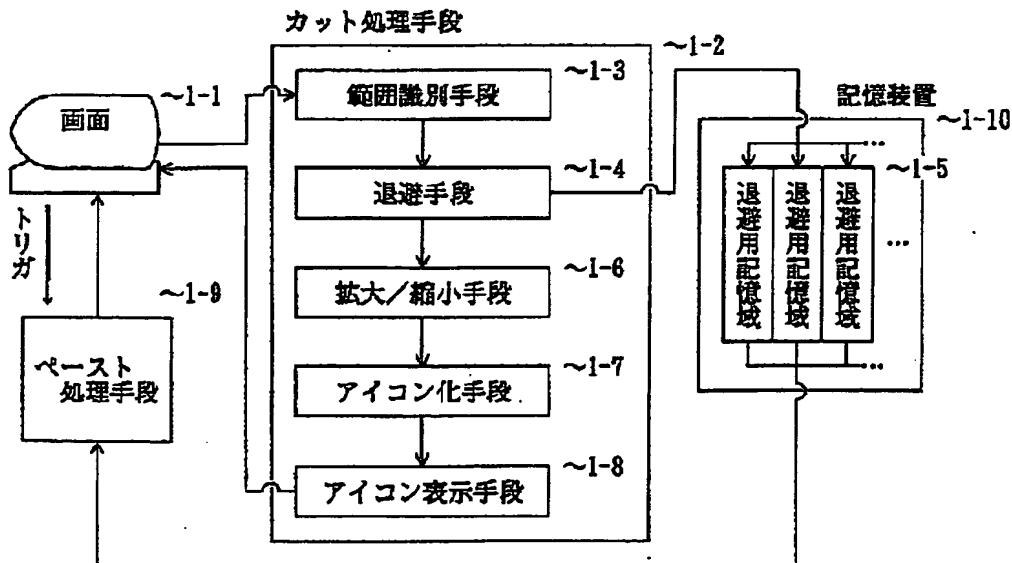
2-5 アイコン表示域

2-6 退避用記憶域

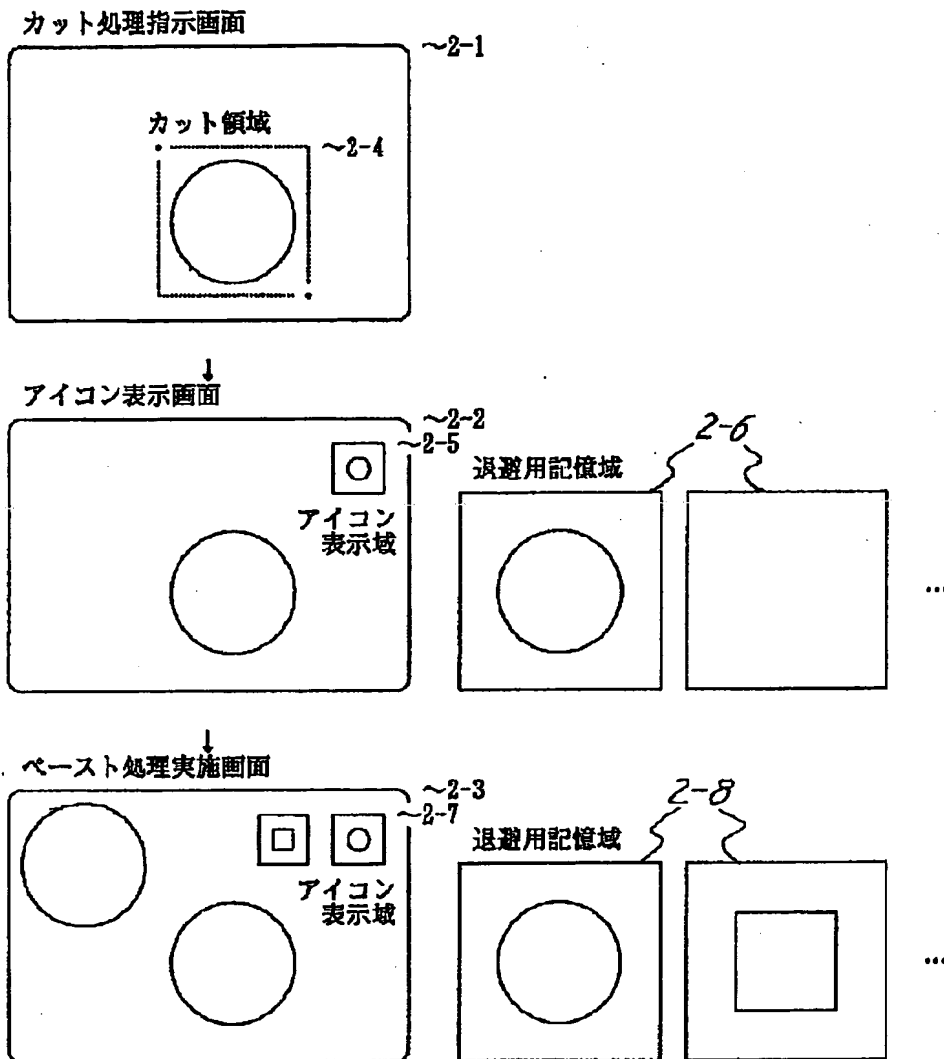
2-7 アイコン表示域

2-8 退避用記憶域

【図1】



【図2】



BEST AVAILABLE COPY